

平成23年度 第3回健康日本21 福岡市計画推進会議専門部会
「健康づくりセンター見直し委員会」議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成23年7月4日（月）18：00～20：00
- 2 開催場所 福岡市役所 本庁 15階 1504 会議室
- 3 会議次第

- 1 開 会
- 2 議 題
福岡市健康づくりセンターの機能再構築について
～ 第3回 ～ 健康づくりセンター見直し後の機能等について（2）
- 3 閉 会

- 4 出席委員 全員（9名）
- 5 傍聴者 5名
- 6 議事概要

議 題 福岡市健康づくりセンターの機能再構築について
～ 第3回 ～ 健康づくりセンター見直し後の機能等について（2）

【前 半】 前回会議の確認～新たな健康づくりセンター機能等について（資料3ページまで）
（質問・意見）

- | | |
|-----|--|
| 委員 | 前回の会議の最後にも意見がありましたが、センターについては名称を大胆に変えてはどうか。たとえば「生活習慣病対策事業センター」など。 |
| 委員 | センター機能の内容が決まってくると、自ずとネーミングも決まってくるのではないかと思うので、まずは機能の整理を。 |
| 委員 | 健康づくりセンターというのは、これまでは市民に健康づくりを学んでいただいたり、病気にならないようにする、いわゆる一次予防が主体だったものを、今回の案では、病気の早期発見や、病気の人がそれ以上悪化しないようにする、いわゆる二次予防、三次予防にも力を入れていくという、機能、理念の大きな変更だと思う。
ただ、このような機能に変わった場合、多くの市民に来ていただけるのか、また、具体的にはどういう人たちが利用することになるのかという思いはある。 |
| 委員 | ここで行う指導とか助言とかいうのは無料なのか。それとも料金がかかるのか。 |
| 事務局 | 支援の内容にもよるが、受益者負担の原則から、サービス内容によっては料金が必要な場合もあると思う。現在も、糖尿病教室については1人 2,000 円を頂いている。ただし、定期的にニュースやメールを送るような一般的なサービスについては無料になると考えている。 |

- 委員 今後、糖尿病を中心とした生活習慣病の重症化予防をこのような形で進めていくということであれば、新たなセンターでは、糖尿病の専門医や栄養士など、市民や医療機関に信頼される人材の確保が必要だと思われる。最高の技術を提供できるようにしなければならないと思われる。
- 委員 健康に意識の高い人は病院に通われるが、問題はそういう意識があまりない人たち、予備群と言われる人たちであるが、このシステムで本当にうまく機能するのか。
- 委員 まずは健診を受診して自分の健康を確認するとともに、保険者側でも健康状態を把握する必要がある。
つまり、特定健診の受診者を増やしていくということになるが、他都市では健診センターというのが存在し、受診したその日のうちに健診結果が出せるなど、受診率向上も含めてうまく機能しているところもある。
健康づくりセンターがそのような機能も持つということになれば、意識の低い人の掘り起こしという面も含め、新システムが有効に機能する可能性は十分に秘めていると思う。
- 【他都市の実例参照（ビデオ上映）※広島県呉市】
- 委員 国民健康保険というのが皆保険の根幹であり、これが崩壊しないよう、医療費を抑制し、市民が健康的な生活を送れるようにすべきであるが、呉市のアプローチというのは、病気の進行を遅らせているというのは事実であり、非常に有意義なアプローチであると思う。
- 委員 糖尿病については、ドロップアウトにより悪化する人が多いし、そういう人はぎりぎりまで自分の体が危ないという認識がない。透析になる直前になって初めて知るという状況であり、もっと早い時点で伝える仕組みとしても有効だと思う。
- 委員 糖尿病患者に対しては、特に食事指導が重要だが、1回だけの指導ではだめであり、何度も繰り返し指導することで、少しずつ意識が高まっていくものである。そういう意味で、定期的な支援がセンターからあれば良いと思う。
- 委員 このシステムにおいて重要なのは、医療機関との連携をどのように進めるかだと思う。地域のかかりつけ医の先生に、このシステムについて理解と協力を頂く必要がある。
- 事務局 参考資料として、特定保健指導の対象外になっている治療中の者に保健指導を提供した場合の効果等に関する報告や、他自治体の生活習慣病の重症化予防の取組み事例を添付していますが、現在の考え方の方向性は、こういう全国的な流れにも沿って

ると考えております。

委員 他の自治体の参考例も踏まえて、これからの健康づくりを推進していくには重症化予防が必要だと思う。

委員 医療費を効果的に削減する手法としては、確かにこういうシステムは必要かもしれないが、あとは費用対効果だと思う。最初からシステム構築に大きく費用をかけて全市的に一気に進めるよりは、最初は試行的に少しずつ始めていった方が良いかもしれない。

事務局 費用対効果として、どういう規模で行うのかにもよりますし、事業費等、今後積算していくことにはなりますが、一般的に言われているのは、こういった施策を行った場合、当初は医療機関にかかる患者が増えるので、一時的には医療費は増える、しかしながら、長い目で見れば、人工透析患者などが減少していくので、医療費は下がっていくということです。年々増加する医療費の状況や、さらなる高齢化の進展を考えたとき、生活習慣病の重症化予防に取り組むことは、必ずや医療費の伸びを効果的に抑えるものになると考えております。

委員 今後10年～20年は団塊世代が多いので、だからこそ彼らを守らないと医療費が多くかかってしまう。健康をかえりみず、がむしゃらに働いてきた人も多く、そういった人たちが透析を受けるようになってきている。そこを防ぐためにこういった方向性に進むのが重要だと思う。

いろいろな課題もあると思うが、可能性を十分に秘めたものだと思う。

【後半】現センター事業のあり方について（資料4ページから最後まで）

（質問・意見）

委員 事業の仕分けの考え方として、ひとつには、現在の費用対効果やニーズだけでなく、内容が良いものなのかどうか判断することも必要だと思う。もっとPRすればどうなのか、そういった面も分析する必要があるのではないかな。

委員 着眼点の追加として、他にはない特異な、または高度な機能として価値がある、そういった項目を設ければ良いのかもしれない。

委員 新規事業を行うにあたって、どの事業を仕分けるかという議論になっているが、そもそも、これは予算の問題ではないのか。そうであれば、予算は増やすこととなるが、現在の事業を残したまま、新規事業を展開するという発想もあるのではないかな。

事務局 現在の健康づくりセンターが指摘を受けてきた課題があり、これについては何らかの解決を図らなければならないと考えている。たとえば、当初構想の運動施設等とのネットワークの構築については実現できなかったが、それをそのまま放置するのでは

なく、これからどうすべきかを考え、見直しを図ることが必要である。そのため、本見直し委員会を設置したと考えている。

委員 健康教室については、糖尿病だけでなく、禁煙や歯周病予防も生活習慣病と関連が深く、継続が望ましいと思う。

委員 現在の図書室は、たとえば健康度診断を利用した人がその後に活用するにしても、近場の人たちだけが利用しやすい状況となっており、もう少し全市的なネットワークも含めて考える必要があると思う。

委員 今までの事業を単に否定するのではなく、これまでの実績、ノウハウ等がこれから生かされるような整理を図っていく必要があると思う。

委員 図書室に限らず、やはり基本としては市民のニーズがあるのか、それが検討にあたっては大事だと思う。顧客がどうなのかを考える必要があるということ。どうすれば発展していくか、事業分析も必要である。

委員 我々ではそのあたりまで結論を出すことは難しいかもしれない。会議にも限りがある。ここでは大きな方向性や検討にあたっての考え方まで出せれば良いのだと思う。

7 今後の議事予定

第4回（7月下旬～8月上旬）

- ・ 総括